

令和4年4月22日（金）  
利根川水系渇水対策連絡協議会  
（事務局：関東地方整備局）

記者発表資料

令和4（2022）年度  
第1回利根川水系渇水対策連絡協議会  
幹事会（春季定例会）の開催結果について

1. 開催状況

日 時：令和4年4月21日（木）15：00～

場 所 等：新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、Web会議  
となりました。

協議会構成：国土交通省関東地方整備局、経済産業省関東経済産業局、  
農林水産省関東農政局、東京都、千葉県、埼玉県、茨城県、  
群馬県、栃木県、独立行政法人水資源機構

協議会の目的：利根川水系の渇水時における円滑な水需給の調整を図る。

2. 開催結果

別紙のとおり

発表記者クラブ

埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、  
東京都庁記者クラブ、千葉県政記者会、茨城県政記者クラブ、  
栃木県政記者クラブ、刀水クラブ・テレビ記者会、水資源記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 河川部 河川環境課	さいとう みつのり 河川環境課長 齋藤 充則（内線）3651 建設専門官 酒井 弘之（内線）3652	住所 〒330-9724 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館 電話 （代表） 048-601-3151
-------------------------------	--	---

## 現状と今後の対応

### (1) 現状

- 降水量（栗橋地点上流域平均）の状況
  - 1月の降水量は28mm（平均値に対する割合64%）
  - 2月の降水量は47mm（平均値に対する割合102%）
  - 3月の降水量は58mm（平均値に対する割合85%）
  - 4月15日0時までの累加降水量は48mm（4月の累加降水量の平均値は90mm）
- 積雪の状況（4月18日9時現在）
  - 藤原ダム地点 積雪深0cm（4月13日に消雪）
  - 尾瀬沼地点 積雪深203cm（概ね平均値）
- 利根川上流9ダムの貯水状況（4月15日0時現在）
  - 貯水量は同時期の平均貯水量を大きく上回っています。
  - 貯水量4億2,372万m<sup>3</sup>、貯水率77%、平均値に対する割合127%

### (2) 今後の見通し

- 気象庁発表の気象情報（1ヶ月予報；令和4年4月16日から令和4年5月15日までの天候見通し）によると、降水量は「多い」及び「平年並」の確率が40%となっています。
- 利根川上流6ダム（矢木沢、奈良俣、藤原、相俣、菌原、ハッ場）は、令和4年4月15日時点では矢木沢・ハッ場以外は満水になっています。今後の融雪水により、矢木沢・ハッ場も満水になる見込みです。平年、矢木沢は5月中旬頃、満水になっています。ハッ場は昨年、4月下旬に満水になっています。
- また、今後は水需要の多い時期になることから、降雨状況によっては、利根川上流9ダムの貯水量が急激に減少することも考えられます。
- 鬼怒川上流4ダムの貯水量は同時期の平均貯水量を上回っておりますが、今後、下流の農業用水等水需要に対して必要な水量を確保するため、降雨状況によっては、貯水量が急激に減少することも考えられます。

### (3) 今後の対応

- 利根川上流9ダム、鬼怒川上流4ダム等は、上流域の融雪状況や降雨、農業用水や都市用水の水利用を十分考慮するとともに、既存施設を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。
- ダム群の貯水量の状況や積雪及び降水量の状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。
- 利根川水系渇水対策連絡協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。

## 利根川上流ダム群等の現状と今後の見通しについて



藤原ダム上流域の状況（令和4年4月18日撮影）

令和4年4月21日

関東地方整備局

# 1. 利根川上流9ダム等の現状

## (1) 利根川

### 1) 栗橋地点上流域平均降水量の状況（令和4年4月15日0時までの降水量）

《令和3年》

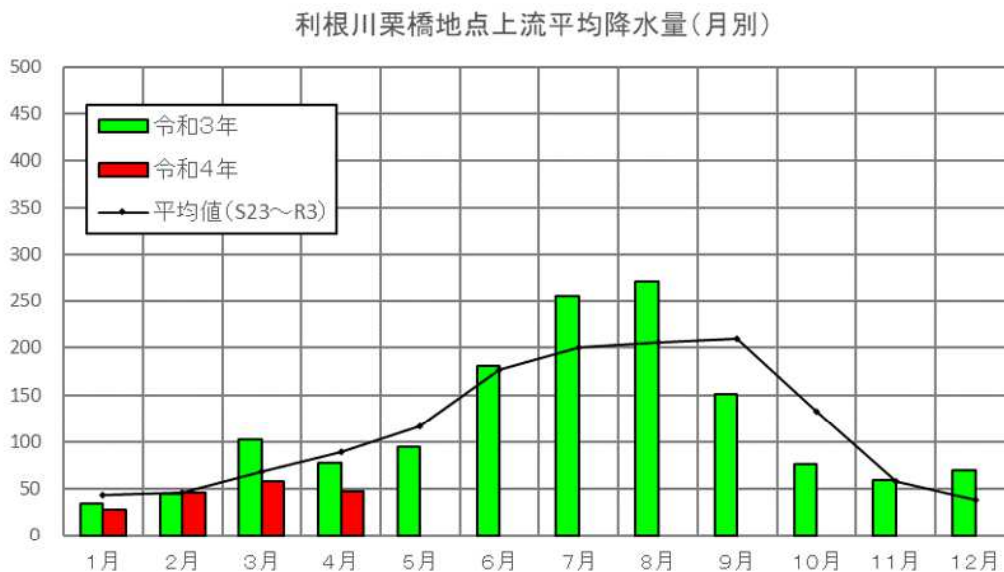
9月は151mm（平均値209mm）、10月は77mm（平均値131mm）と平均値の約7割程度の降水量で、11月はほぼ平均と同量、12月は70mm（平均値39mm）と平均値を上回る降水量でした。

《令和4年》

1月は28mm（平均値44mm）と平均値を下回る降水量で、2月は概ね平均値、3月は58mm（平均値68mm）と平均値を下回る降水量でした。

4月の降水量は、15日0時までの累加で48mmとなっています。（4月の降水量の平均値は90mm）

（図－1、表－1参照）



図－1 利根川栗橋地点上流域平均降水量（令和4年4月15日0時まで）

表－1 利根川栗橋地点上流域平均降水量（令和4年4月15日0時まで）

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
平成6年	27	50	52	23	139	107	104	153	346	87	26	29	1,143	利根川夏渇水
平成8年	26	35	68	47	98	117	155	78	217	80	55	23	999	利根川冬夏渇水
平成9年	33	33	59	74	179	173	170	167	206	14	94	20	1,222	利根川冬渇水
平成13年	79	35	75	23	136	176	116	366	321	173	46	23	1,569	利根川夏渇水
平成24年	43	57	115	98	206	192	190	87	221	85	55	47	1,395	〃
平成25年	43	38	20	134	46	168	152	153	244	224	24	48	1,294	〃
平成28年	69	36	57	104	56	156	134	328	312	55	68	56	1,431	〃
令和2年	76	25	99	134	104	211	278	81	163	146	10	29	1,356	-
令和3年	34	45	102	78	95	181	256	271	151	77	59	70	1,419	-
平均値(S23~R3)	44	46	68	90	116	177	201	207	209	131	58	39	1,386	-
令和4年	28	47	58	48	-	-	-	-	-	-	-	-	181	-
平均値に対する割合(%)	64	102	85	53	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-

※■：利根川取水制限実施月（一時緩和含む） ※栗橋上流域面積：8,588km<sup>2</sup>

2) 藤原ダム地点及び尾瀬沼地点の雪の状況（令和3年～令和4年 冬期）

《積雪状況》

今シーズンの積雪は、昨シーズンを上回り平均を大きく上回る積雪となりました。

今冬は12月下旬以降、日本付近に強い寒気が流れ込むことが多かったため、北日本から西日本の日本海側を中心にしばしば大雪となっており、藤原ダム地点でも日あたりの積雪量が30cm以上の日数が12日間ありました。

現在はおおむね平均的な積雪深となっています。4月15日9時の積雪深は藤原ダム地点で0cm、尾瀬沼地点で203cmとなっています。

（表-2、図-2参照）

表-2 藤原ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深

観測所名	時 点	積雪深	今期最大積雪深
藤原ダム (標高667m)	令和4年4月15日9時現在	0cm	227cm(2月23日)
	S34～R3の4月第3半旬末平均値	7cm	
尾瀬沼 (標高1666m)	令和4年4月15日9時現在	203cm	332cm(3月7日)
	S30～R3の4月第3半旬末平均値	204cm	

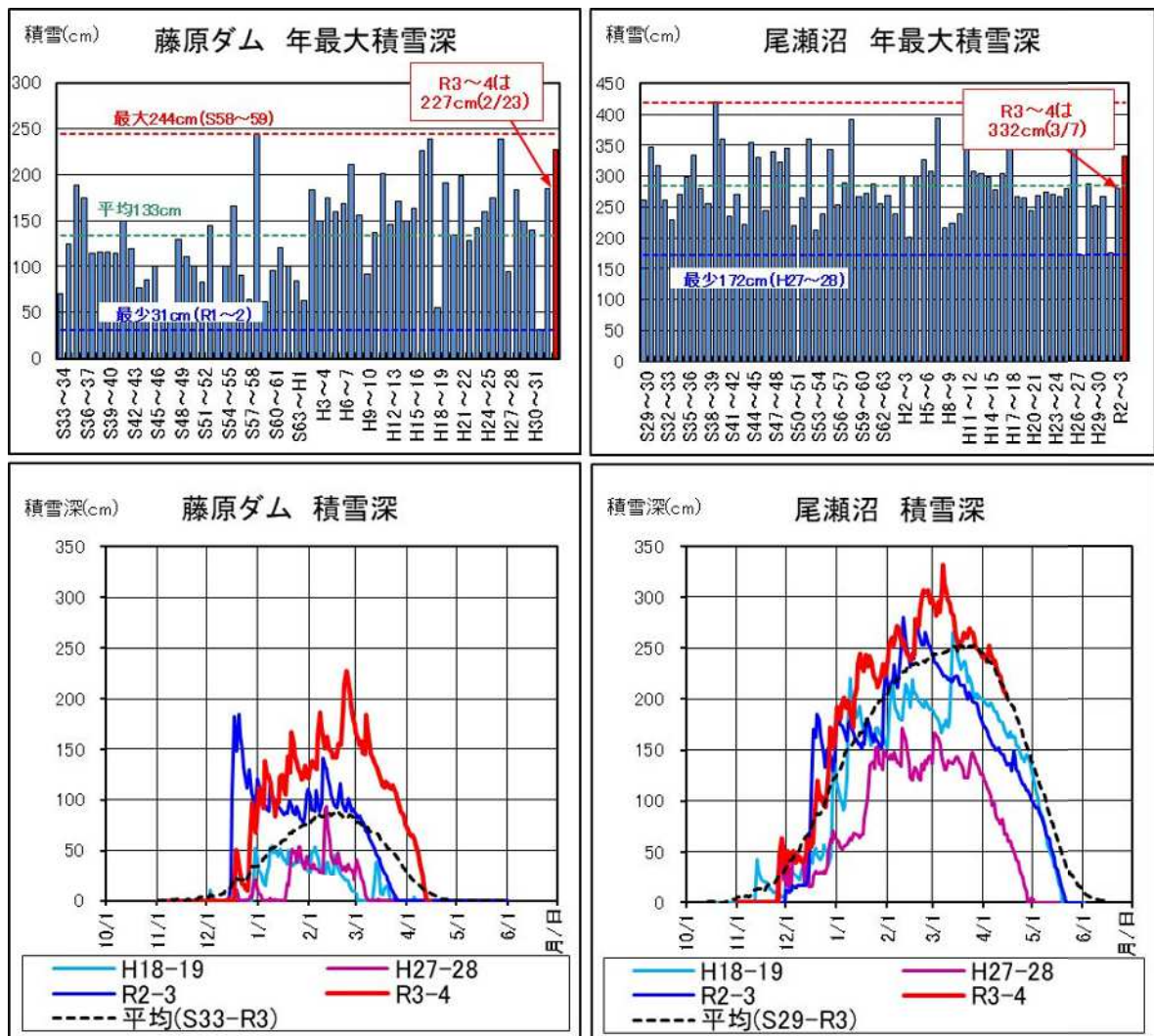


図-2 藤原ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深図

（令和4年4月15日9時現在）

※過去及び平均のデータは半旬末の値

### 3) 各観測所の積雪の状況

奥利根流域における積雪観測所の令和4年4月15日9時現在の積雪状況は、おおむね平均的な積雪深となっています。

(図-3、図-4 参照)

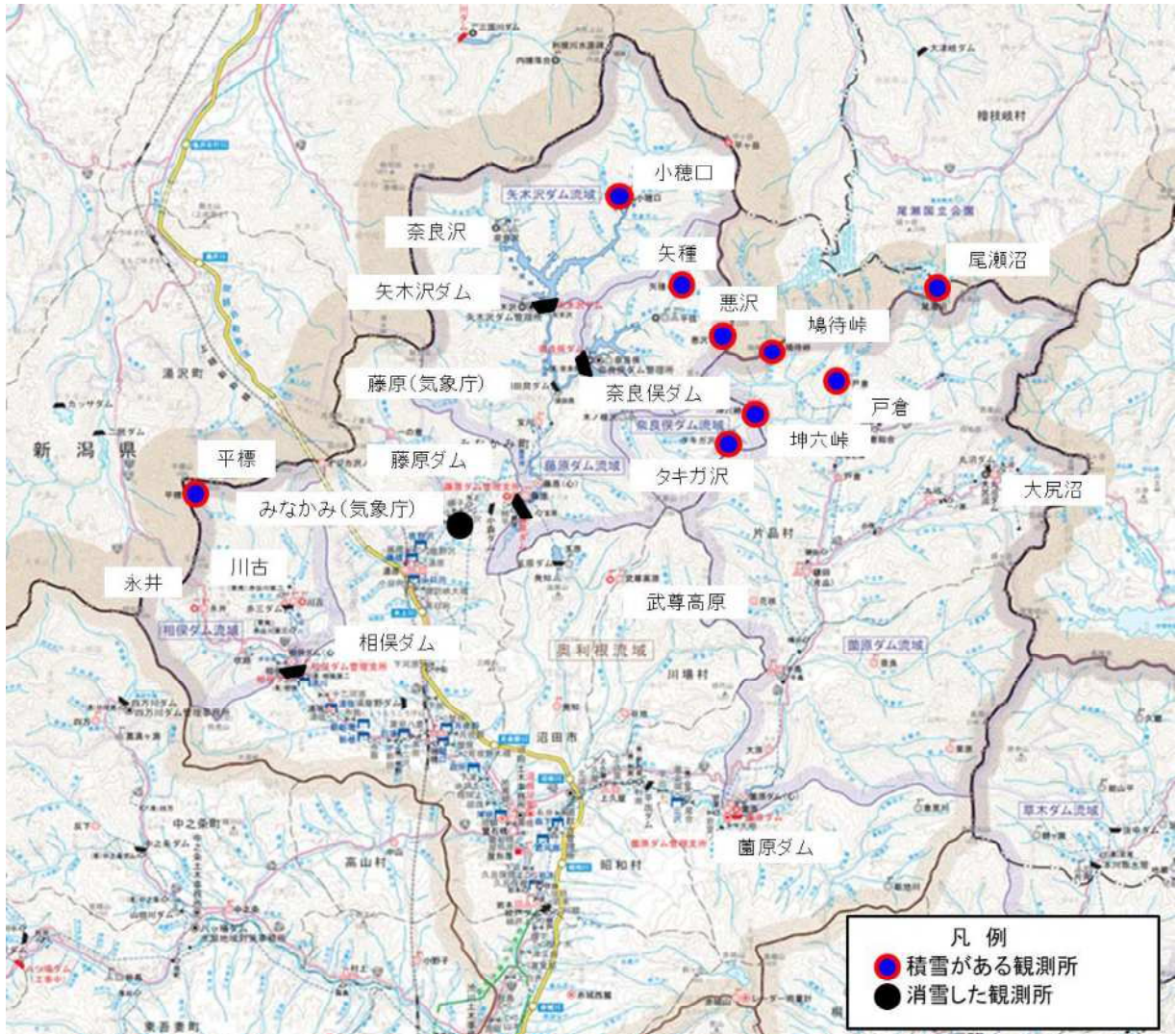


図-3 積雪観測所位置図

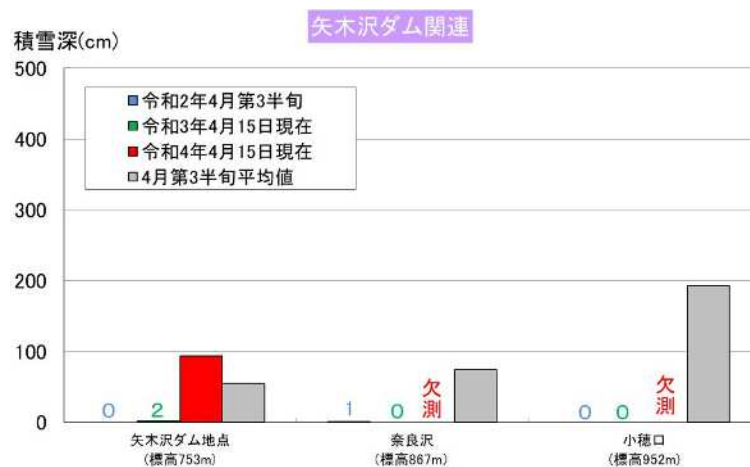


図-4 各観測所の積雪深状況 (1) (令和4年4月15日9時現在)

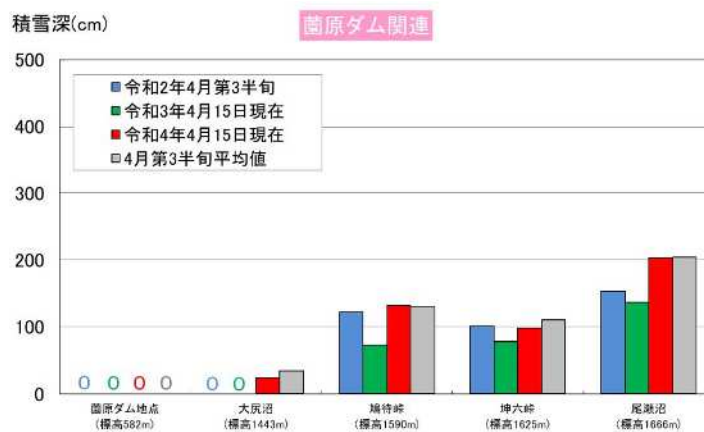
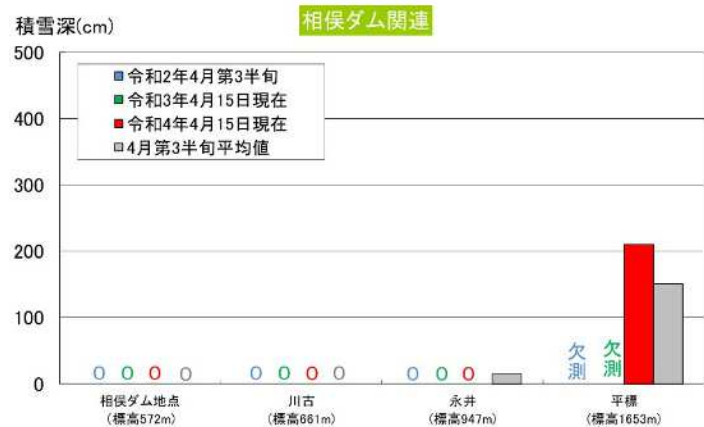
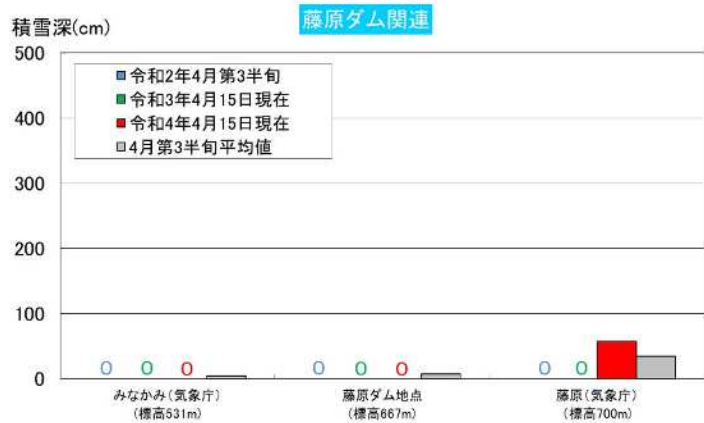
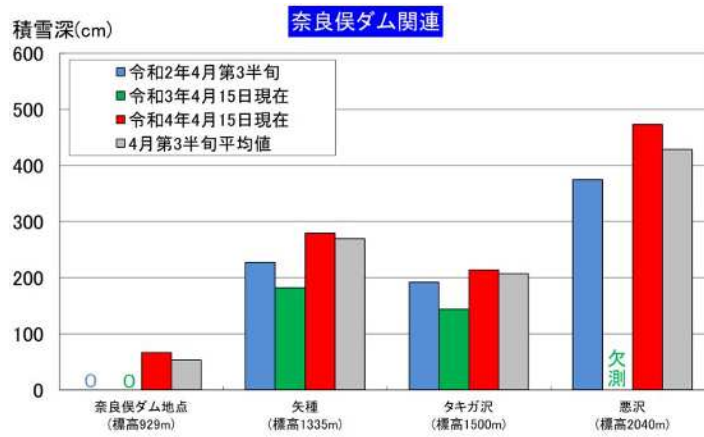


図-4 各観測所の積雪深状況(2)(令和4年4月15日9時現在)

4) 利根川上流9ダムの貯水状況等（令和4年4月15日0時現在）

《令和3年》

11月、12月に平均以上の降雨があったこともあり、平均値を上回る4億m<sup>3</sup>以上の貯水量で推移しました。

《令和4年》

令和3年末からのダム補給により貯水量が減少しましたが、北千葉導水路等の運用、融雪による流況の回復により4月15日0時現在の利根川上流9ダムの合計貯水量は4億2,372万m<sup>3</sup>、貯水率は77%（貯水量の平均値（平成4年～令和3年）に対する割合は127%）となっています。

（表-3、図-5参照）

なお、奥利根5ダムの合計貯水量は2億1,024万m<sup>3</sup>、貯水率は79%となっています。

表-3 利根川上流9ダム貯水量（令和4年4月15日0時現在）

ダム名	有効容量 (万m <sup>3</sup> )	前日貯水量 万m <sup>3</sup>	貯水量 (万m <sup>3</sup> )	貯水率 (%)	前日補給量 (万m <sup>3</sup> /日)
矢木沢ダム	11,550	6,505	6,709	58	-204
奈良俣ダム	8,500	8,044	8,279	97	-235
藤原ダム	3,101	2,901	2,863	92	38
相俣ダム	2,000	1,962	1,956	98	6
園原ダム	1,322	1,248	1,217	92	31
5ダム合計	26,473	20,660	21,024	79	-364
ハツ場ダム	9,000	7,235	7,436	83	-201
下久保ダム	12,000	8,117	8,131	68	-14
草木ダム	5,050	4,937	4,985	99	-48
8ダム計	52,523	40,949	41,576	79	-627
渡良瀬貯水池	2,640	796	796	30	0
9ダム合計	55,163	41,745	42,372	77	-627
8ダム合計の平均値 (平成4年～令和3年)			33,294	(平均値に対する割合127%)	

※有効容量は、常時満水容量

※貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合

※前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。）

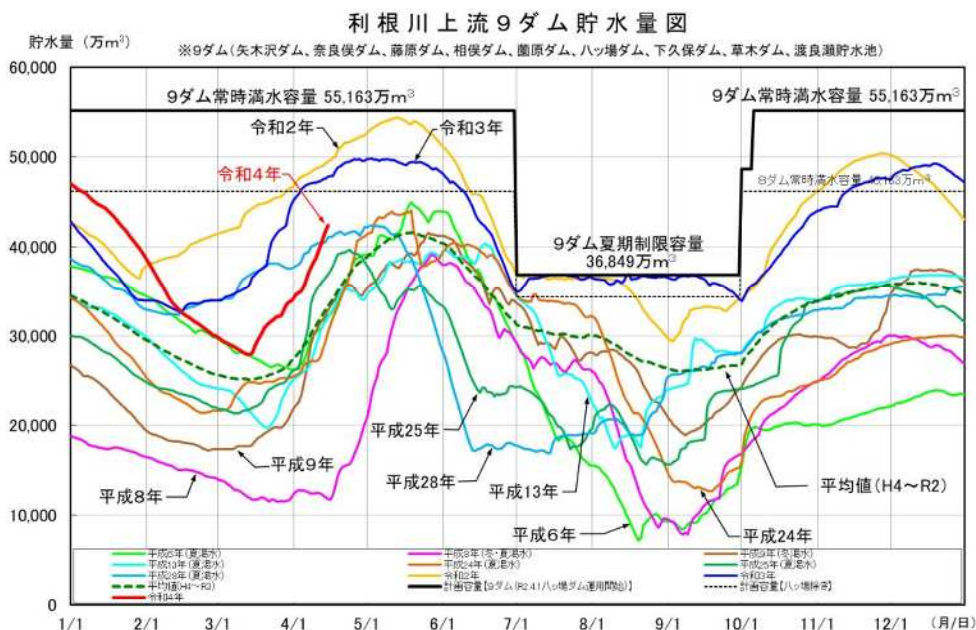


図-5 利根川上流9ダム貯水容量図（令和4年4月15日0時現在）



5) 北千葉導水路、三郷放水路の運用状況

北千葉導水路は2月10日から7m<sup>3</sup>/sで運用開始。三郷放水路の運用はありませんでした。

流況の低減に合わせ2月16日から14m<sup>3</sup>/s、3月10日から16m<sup>3</sup>/sへ増量。降雨等で流況が回復したことから3月16日から運用を停止しています。なお、降雨・降雪による一時的な流況回復に合わせきめ細かな運用を実施しています。

4月15日0時までの合計導水量は、約3,306万m<sup>3</sup>(35日間)となっております。(図-6参照)

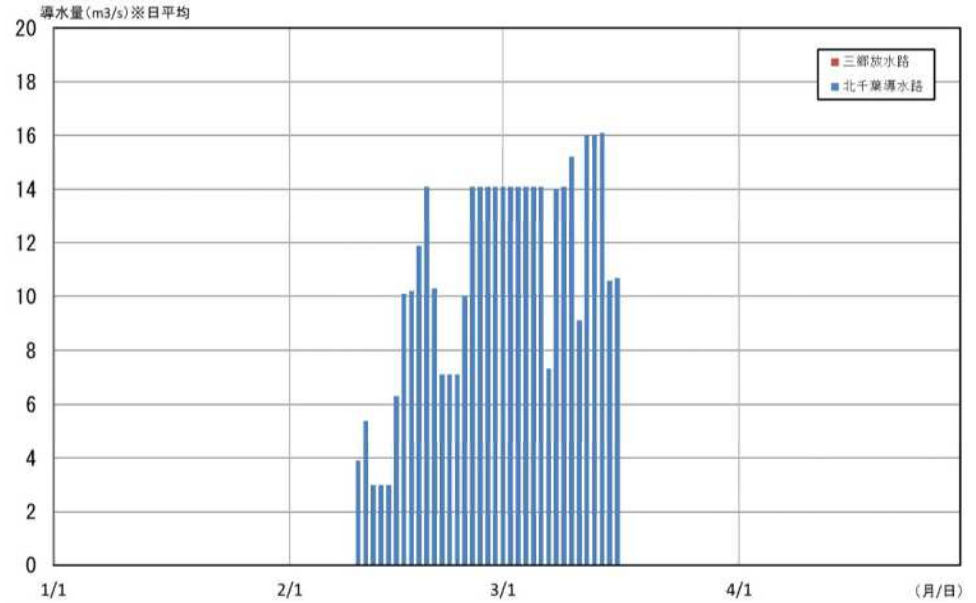


図-6 令和3年 北千葉導水路の運用状況 (令和4年4月15日0時まで)

6) 渡良瀬貯水池の現状

渡良瀬貯水池は水質改善のため、平成9年から利根川の流況を見ながら「干し上げ」を行っています。令和4年の干し上げについては、水門耐震工事を干し上げ実施期間に合わせ実施しており、工事制限水位を設けておりますが、令和4年4月26日から自然流入により貯留を行う予定となっております。

令和4年4月15日0時現在の貯水量は、796万m<sup>3</sup>、貯水率は30% (貯水量の平均値(平成4年～令和3年)に対する割合は54%) となっております。(図-7)

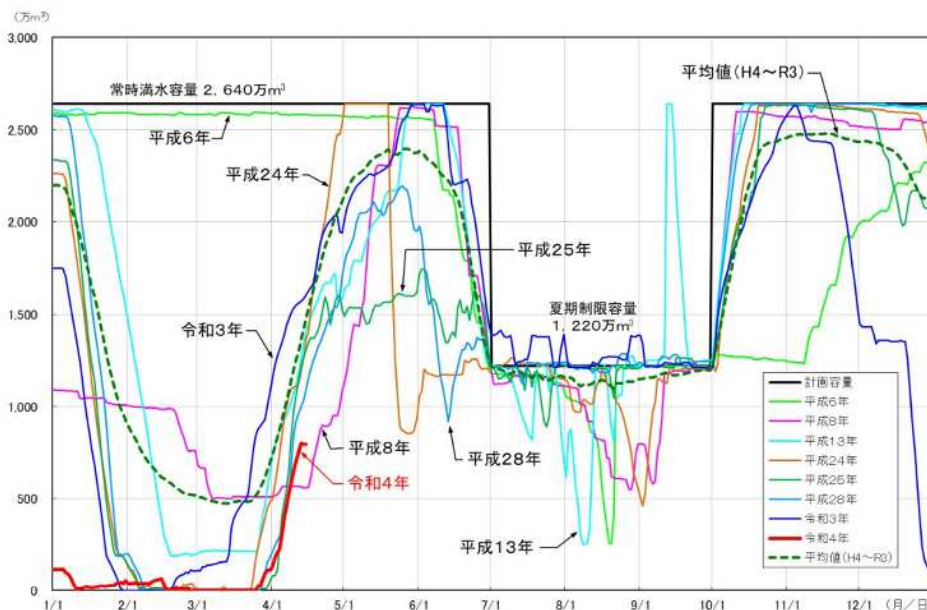


図-7 渡良瀬貯水池貯水量図 (令和4年4月15日0時現在)

## (2) 鬼怒川

### 1) 佐貫地点上流域平均降水量の状況（令和4年4月15日0時までの降水量）

《令和3年》

9月は169mm（平均値285mm）、10月は91mm（平均値157mm）と平均値の約6割を下回る降水量で、11月は111mm（平均値82mm）、12月は116mm（平均値48mm）と平均値を大きく上回る降水量でした。

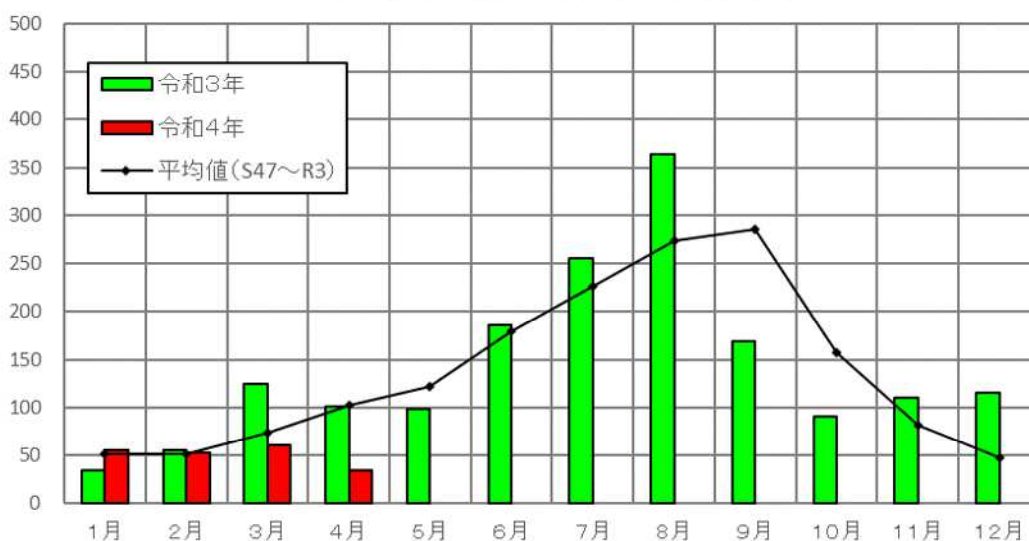
《令和4年》

1月、2月はほぼ平均値並の降水量となり、3月は61mm（平均値74mm）と平均値を下回る降水量となりました。

4月の降水量は15日0時までの累加で35mmとなっています。（4月の降水量の平均値は103mm）

（図－8、表－4参照）

鬼怒川佐貫地点上流平均降水量(月別)



図－8 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和4年4月15日0時まで）

表－4 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量[mm]（令和4年4月15日0時まで）

単位(mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	21	34	127	21	121	134	186	156	321	121	38	21	1,301	
平成5年	91	84	20	17	89	226	321	307	280	112	209	52	1,808	
平成6年	15	118	77	21	126	103	159	218	551	122	25	48	1,583	利根川・鬼怒川夏湯水
平成7年	62	14	170	99	216	337	167	113	177	57	65	68	1,545	
平成8年	46	69	79	67	113	103	176	109	211	66	65	36	1,140	利根川冬湯水 利根川・鬼怒川夏湯水
平成13年	56	13	34	13	116	185	147	484	610	225	62	35	1,980	利根川・鬼怒川夏湯水
平成24年	40	47	101	111	314	276	227	109	354	113	71	75	1,838	利根川夏湯水
平成25年	45	35	14	147	46	171	177	172	411	301	29	66	1,614	鬼怒川夏湯水
平成28年	66	35	31	109	63	138	94	401	306	49	53	47	1,392	鬼怒川夏湯水
平成29年	91	45	38	74	93	95	242	337	200	392	18	62	1,687	利根川・鬼怒川夏湯水
平成30年	73	19	174	74	132	94	240	330	328	107	31	51	1,653	鬼怒川夏湯水
令和2年	106	19	78	172	108	135	231	102	369	120	12	44	1,496	—
令和3年	34	56	125	101	99	186	255	364	169	91	111	116	1,707	—
平均値(S47~R3)	51	52	74	103	122	180	227	274	285	157	82	48	1,655	
令和4年	56	53	61	35	—	—	—	—	—	—	—	—	205	—
平均値に対する割合(%)	110	102	82	34	—	—	—	—	—	—	—	—	12	—

■：鬼怒川取水制限実施月（一時緩和含む）※佐貫地点上流域面積：940km<sup>2</sup>

## 2) 鬼怒川上流4ダムの貯水状況等(令和4年4月15日0時現在)

《令和3年》

五十里・川治ダムにおいて堆積した土砂掘削工事のため、また、湯西川ダムにおいてダム上流面の補修工事のため、貯水位の上昇を制限していたため平均値を下回る貯水量で推移していました。

《令和4年》

令和4年に入ってから平均値を下回る貯水量で推移していましたが、過去の平均を上回る積雪の融雪により4月15日に鬼怒川4ダムの合計貯水量が満水に達しました。

令和3年4月15日0時の貯水量は2億4,265万 $m^3$ 、貯水率96%(貯水量の平均値(平成26年～平成27年、令和元年～令和3年)に対する割合は107%)となっています。

(表-5、図-9参照)

表-5 鬼怒川上流4ダム貯水量(令和4年4月15日0時現在)

ダム名	有効容量 (万 $m^3$ )	前日貯水量 万 $m^3$	貯水量 (万 $m^3$ )	貯水率 (%)	前日補給量 (万 $m^3$ /日)
五十里ダム	3,200	2,798	2,867	90	-69
川俣ダム	7,310	7,247	7,234	99	13
川治ダム	7,600	7,195	7,205	95	-10
湯西川ダム	7,200	6,877	6,959	97	-82
4ダム合計	25,310	24,117	24,265	96	-148
4ダム合計の平均値 (平成4年～令和3年)			22,678	(平均値に対する割合107%)	

※有効容量は、常時満水容量

※貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合

※前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。(値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。)

※データは湯西川ダムが完成して4ダムで運用している平成25年から集計し、平均値は渇水年であった平成25年、平成28年、平成29年及び平成30年は除いています。

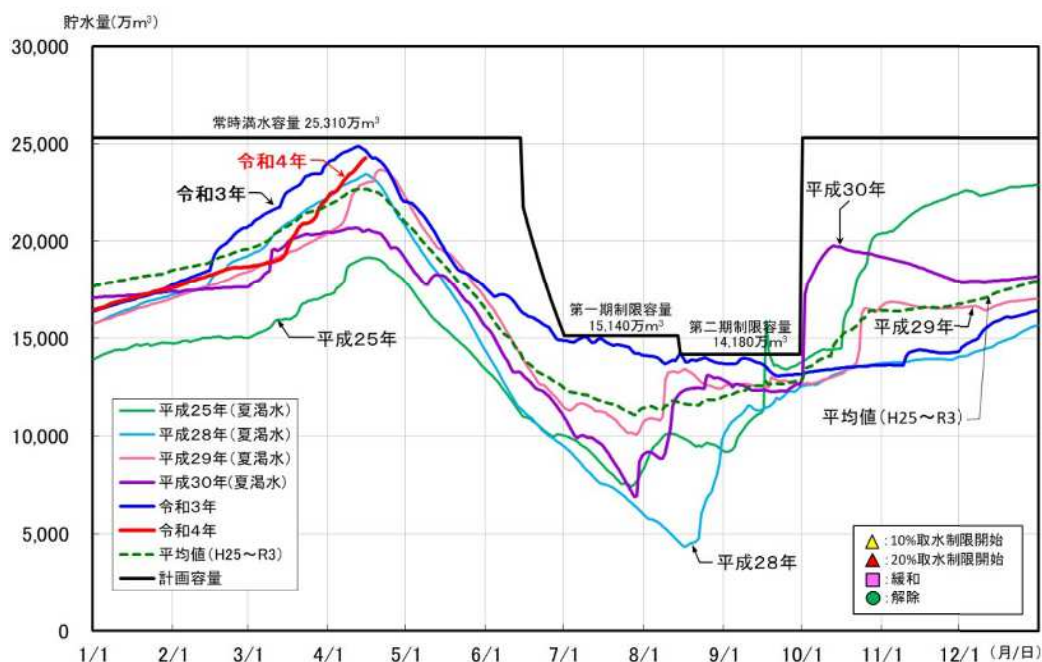


図-9 鬼怒川上流4ダム貯水容量図(令和4年4月15日0時現在)

参考

荒川水系

1) 秋ヶ瀬地点上流域平均降水量の状況（令和4年4月15日0時までの降水量）

《令和3年》

9月は144mm（平均値232mm）、10月は117mm（平均値160mm）と平均値の約6割～7割の降水量で、11月はおおむね平均値、12月は66mm（平均値32mm）と平均値を上回る降水量でした。

《令和4年》

1月は7mm（平均値35mm）、2月は26mm（平均値40mm）、3月は65mm（平均値71mm）と平均値を下回っています。

4月の降水量は、15日0時までの累加で72mmとなっています。（4月の降水量の平均値は95mm）

（図-10、表-7参照）

荒川秋ヶ瀬地点上流平均降水量(月別)

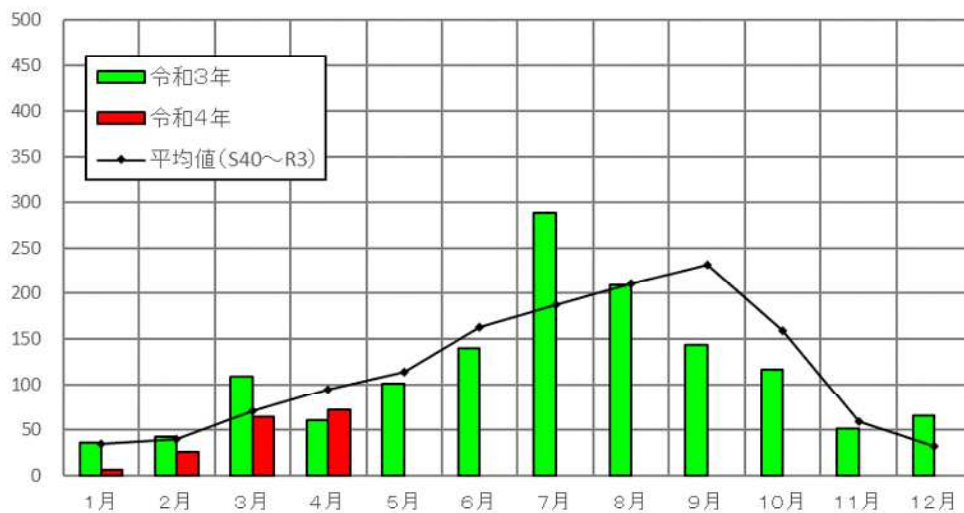


図-10 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和4年4月15日0時まで）

表-7 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和4年4月15日0時まで）

単位(mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975	利根川・荒川夏濁水
平成5年	82	34	37	44	76	186	275	276	204	112	113	25	1,464	荒川夏濁水
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191	利根川・荒川夏濁水
平成7年	24	25	111	44	129	239	177	109	180	73	24	0	1,135	荒川夏濁水
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965	利根川・荒川冬夏濁水
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657	利根川夏濁水
平成24年	36	54	93	86	257	217	102	65	245	93	54	33	1,335	利根川夏濁水
平成25年	35	18	37	152	36	172	94	77	238	327	17	46	1,249	利根川夏濁水
平成28年	75	53	74	72	44	119	90	462	247	31	87	60	1,414	利根川夏濁水
平成29年	24	10	73	67	67	70	218	263	138	488	13	7	1,437	荒川夏濁水
令和2年	95	11	105	186	103	221	304	56	261	209	5	3	1,559	-
令和3年	36	43	110	60	102	140	288	209	144	117	51	66	1,366	-
平均値(S40-R3)	35	40	71	95	114	164	188	211	232	160	59	32	1,401	-
令和4年	7	26	65	72	-	-	-	-	-	-	-	-	170	-
平均値に対する割合(%)	20	65	92	86	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-

※■：荒川取水制限実施月（一時緩和含む） 秋ヶ瀬地点上流域面積：2.021km<sup>2</sup>

2) 荒川4ダムの貯水状況等（令和4年4月15日0時現在）

《令和3年》

9月、10月、11月の少雨の影響により平均値を下回る貯水量で推移しました。

《令和4年》

令和4年に入ってから平均値を下回る貯水量で推移し、令和4年4月15日0時の貯水量は8,468万m<sup>3</sup>、貯水率59%（貯水量の平均値（平成22年～令和3年）に対する割合は86%）となっています。（表-8、図-11参照）

表-8 荒川4ダム貯水量（令和4年4月15日0時現在）

ダム名	有効容量 (万m <sup>3</sup> )	前日貯水量 万m <sup>3</sup>	貯水量 (万m <sup>3</sup> )	貯水率 (%)	前日補給量 (万m <sup>3</sup> /日)
二瀬ダム	2,000	217	228	11	-11
滝沢ダム	5,800	3,576	3,588	62	-12
浦山ダム	5,600	3,639	3,641	65	-2
荒川貯水池	1,020	1,011	1,011	99	0
4ダム合計	14,420	8,443	8,468	59	-25
4ダム合計の平均値 (平成4年～令和3年)			9,795	(平均値に対する割合86%)	

※有効容量は、常時満水容量

※貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合

※前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差（値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。）

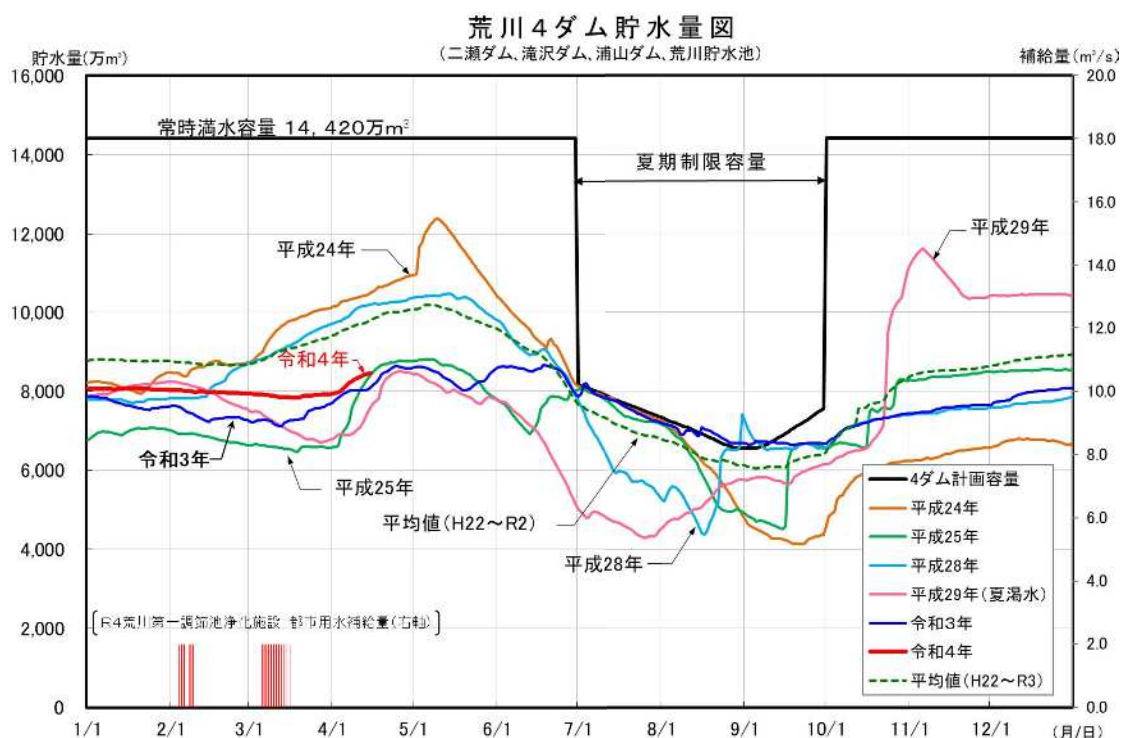


図-11 荒川4ダム貯水量図（令和4年4月15日0時現在）

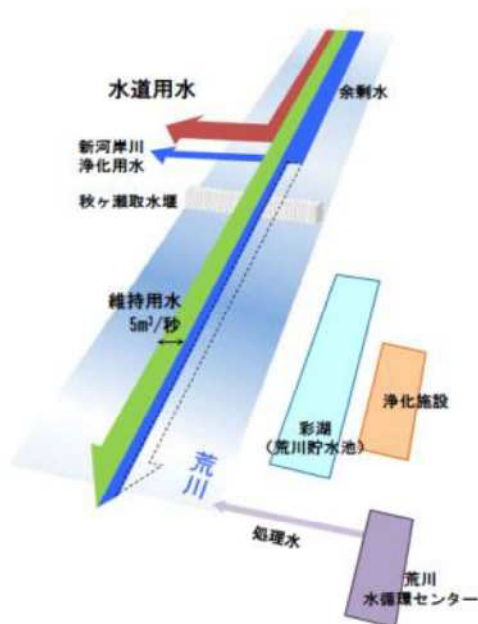
### 3) 荒川第一調節池浄化施設の運用状況

令和4年1月1日から4月15日までに約276万 $m^3$ （16日間）の補給をしています。

（図-11 参照）

#### 荒川本川流量で水道用水が取水できるとき

- ・堰上流で必要な水量を取水します。
- ・余剰水は堰下流へ放流するとともに、新河岸川への浄化用水として利用します。
- ・彩湖の貯水量が少ない場合には彩湖に取水することもあります。



#### 荒川本川流量で水が足りないとき

- 水道用水を確保するため、
- ・彩湖(荒川貯水池)から堰の上流に補給します。
  - ・下水処理水を浄化施設に導水して浄化し、堰の下流に放流します。これにより、秋ヶ瀬取水堰は下流への放流量を減らすことが可能となり、結果として堰上流で水道用水の取水が可能となります。

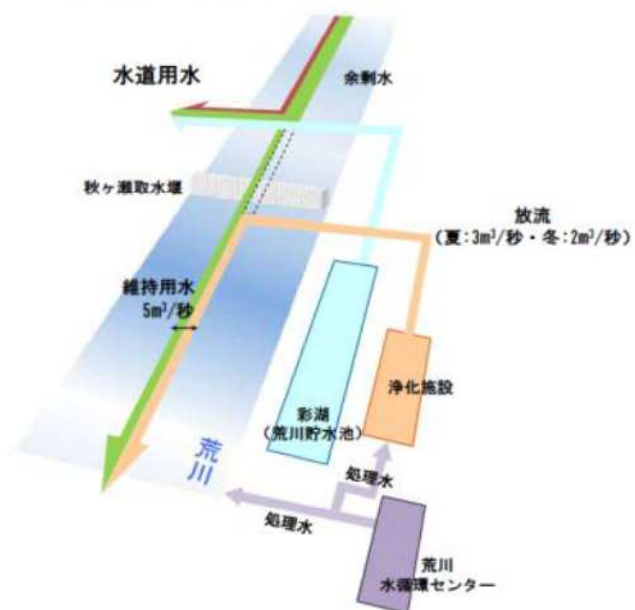


図-12 荒川貯水池及び浄化施設による利水補給

## 多摩川水系

### 1) 小河内ダム地点上流域平均降水量の状況（令和4年4月18日7時までの降水量）

令和4年の小河内ダム地点上流域における降水量は、1月は10mm（平均値44mm）、2月は29mm（平均値56mm）と平均値の5割以下の降水量となっており、3月はおおむね平均値となっております。4月の降水量は、18日7時までの累加で68mm（4月の降水量の平均値は110mm）となっております。（図-13参照）

多摩川小河内ダム地点上流域平均降水量

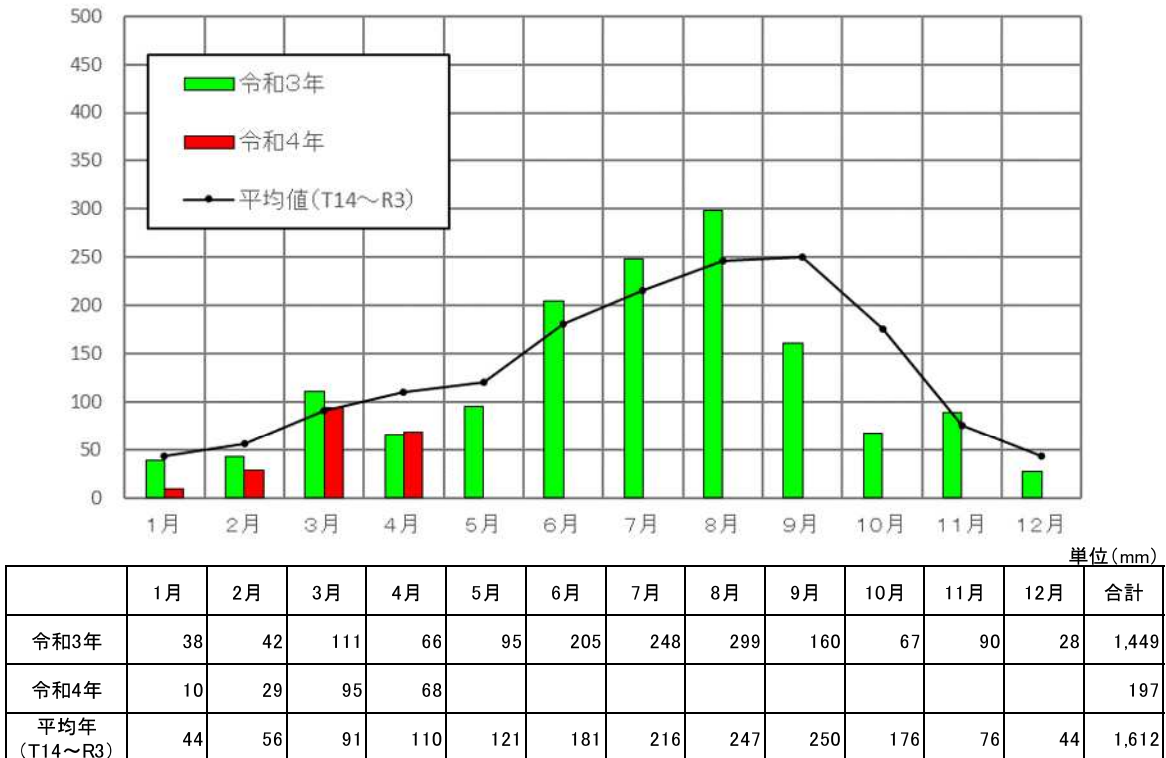


図-13 多摩川小河内ダム地点上流域平均降水量（令和4年4月18日7時までの降水量）

### 2) 小河内ダムの貯水状況

令和4年4月15日7時現在の貯水量は、1億3,081万 $m^3$ となっております。（図-14参照）

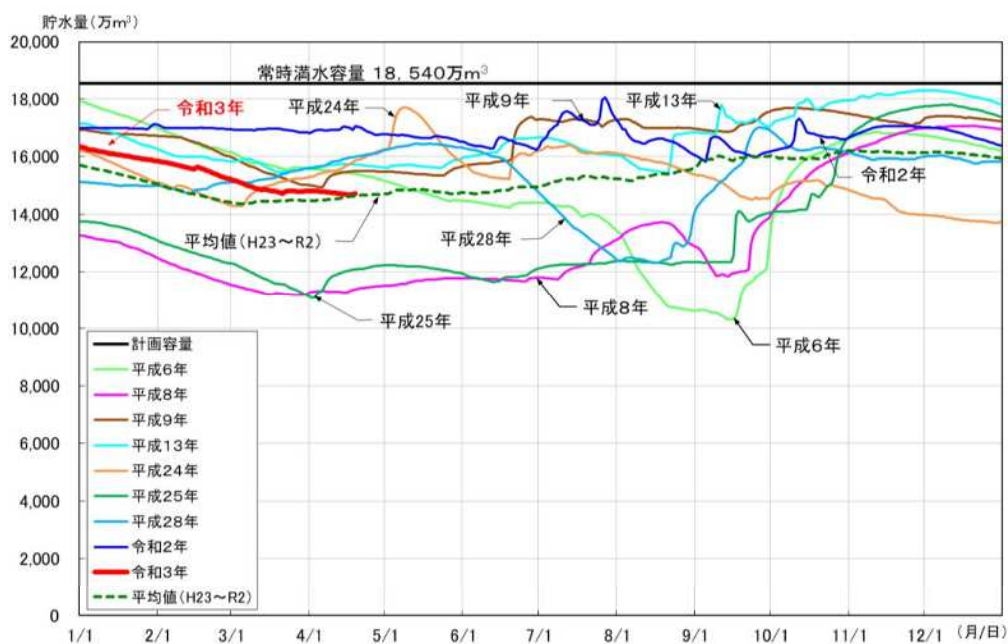


図-14 多摩川小河内ダム貯水容量図（令和4年4月15日7時現在）

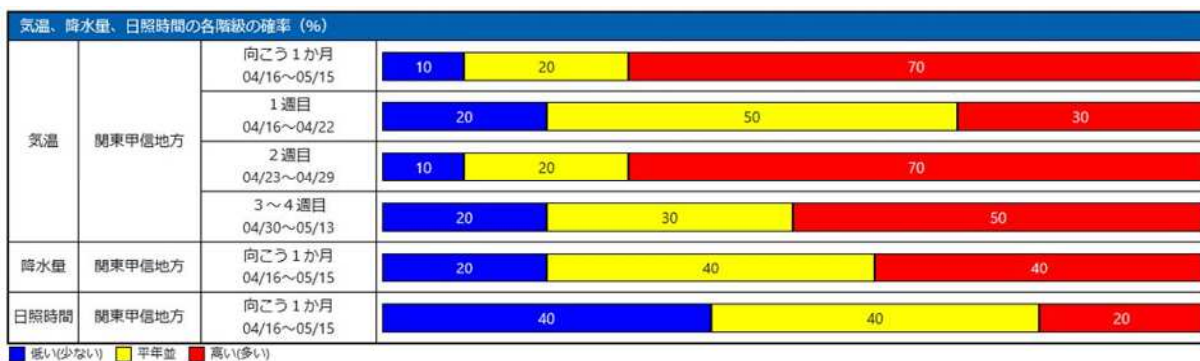
## 2. 今後の見通し

### (1) 気象予報

令和4年4月14日気象庁発表の関東甲信地方の1か月予報(令和4年4月16日から令和4年5月15日までの天候見通し)によると、向こう1か月の気温は「高い」の確率が70%、降水量は「多い」及び「平年並」の確率が40%となっています。

また、令和4年3月25日気象庁発表の3か月予報(令和4年4月から令和4年6月までの天候見通し)によると、向こう3か月の気温は「高い」の確率が50%、降水量は「少ない」の確率が40%となっています。

#### 1か月予報(令和4年4月14日発表)



#### 3か月予報(令和4年3月25日発表)





# 首都圏の主要な河川と水資源開発施設

